

令和6年度奨学論文

論題

申し出の発話行為における日越比較—ポライトネスの観点から見る—

経済学科4年 G140192021 NGUYEN THI THU HUONG

要約

本研究は、ポライトネス理論を用いて、日本語とベトナム語における申し出に関する発話行為の違いを明らかにすることを目的とし、日本語母語話者、ベトナム語母語話者、日本語学習者（ベトナム人）の申し出表現を比較し、各言語の発話行為の傾向について調べた。その結果、日本語母語話者は、他者に邪魔されたくないという欲求に基づくネガティブポライトネスを重視し、相手の気持ちを考慮してプライベートな領域に踏み込む前に承認を求める傾向が見られた。一方、ベトナム語母語話者は、親しい相手にはネガティブポライトネスを重視して配慮を示し、未知の相手には他者に理解されたいという欲求を基盤としたポジティブポライトネスを重視し、直接的な表現を使うことが多かった。日本語学習者は、日本語母語話者と同様にネガティブポライトネスを重視する傾向があり、言語を学ぶことでその文化に無意識に適応することが確認された。